

# 保倉川放水路整備事業（仮称） 環境影響評価方法書説明会

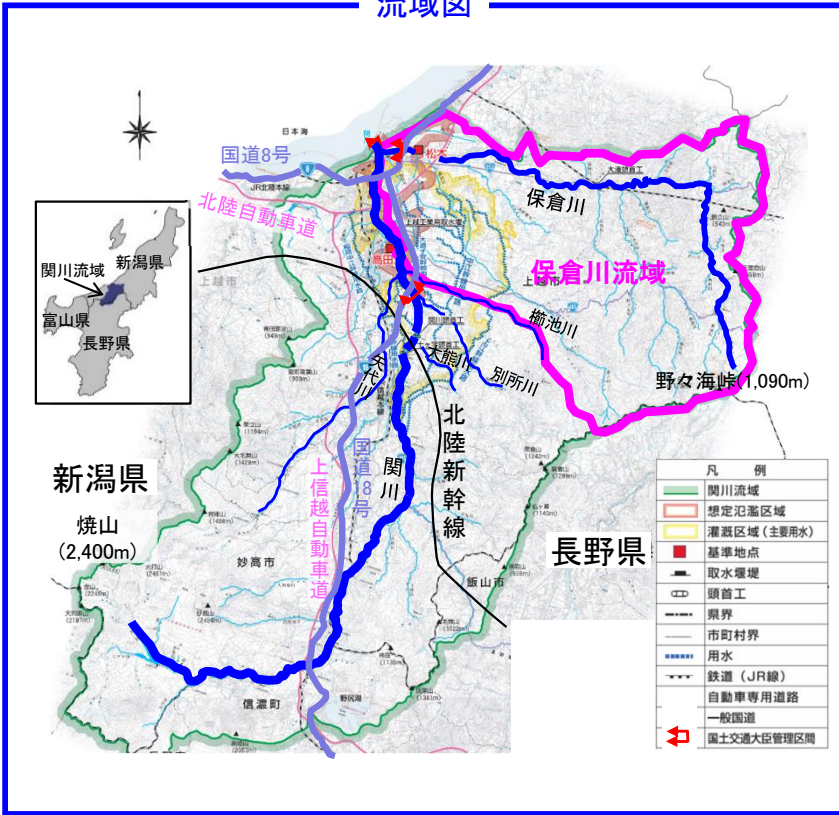
## 事業概要

令和8年3月10日, 12日, 14日  
北陸地方整備局 高田河川国道事務所

# 1. 保倉川流域の概要

- 保倉川は関川の河口付近で本川と合流する幹川流路延長54km、流域面積368km<sup>2</sup>の一級河川。
- 保倉川流域の約6割は山林、3割は農地が占め、1割弱を占める市街地は保倉川下流部及び関川下流部に形成され、宅地、工場等の資産が集中している。
- 保倉川下流部は関川と海岸砂丘に囲まれた鍋底のような低平地(周囲より低く水が溜まりやすい地形)であり、氾濫が生じると浸水が長時間続くおそれがあります。

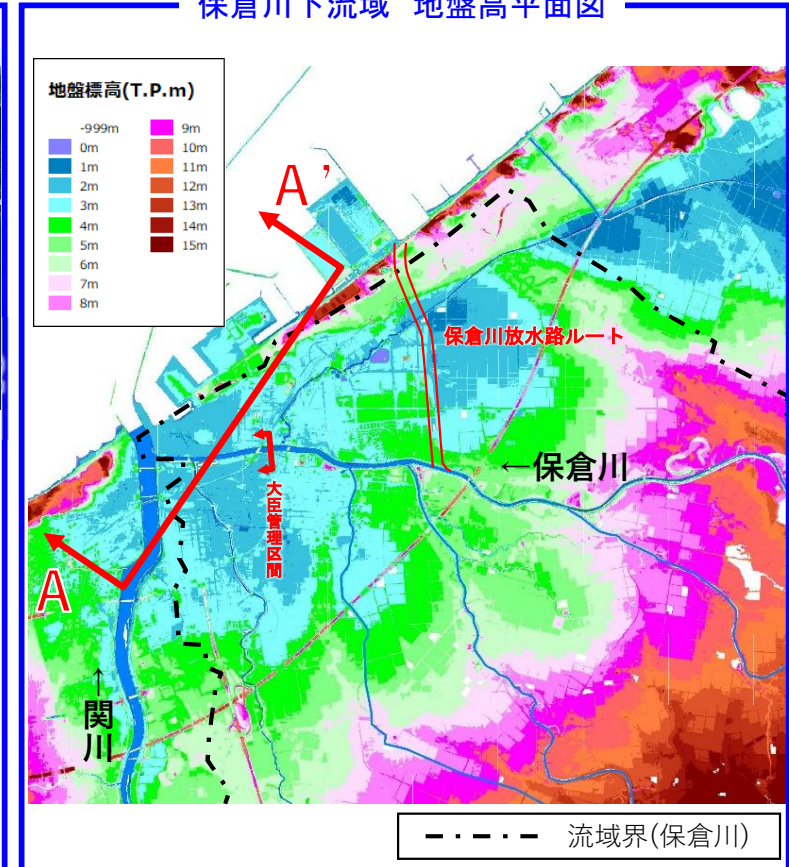
流域図



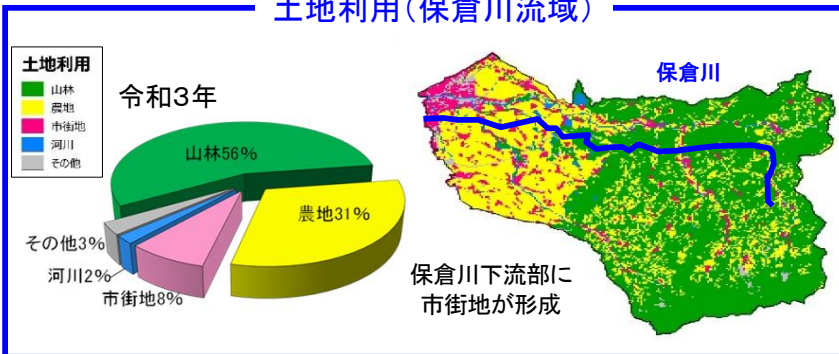
保倉川下流域の状況



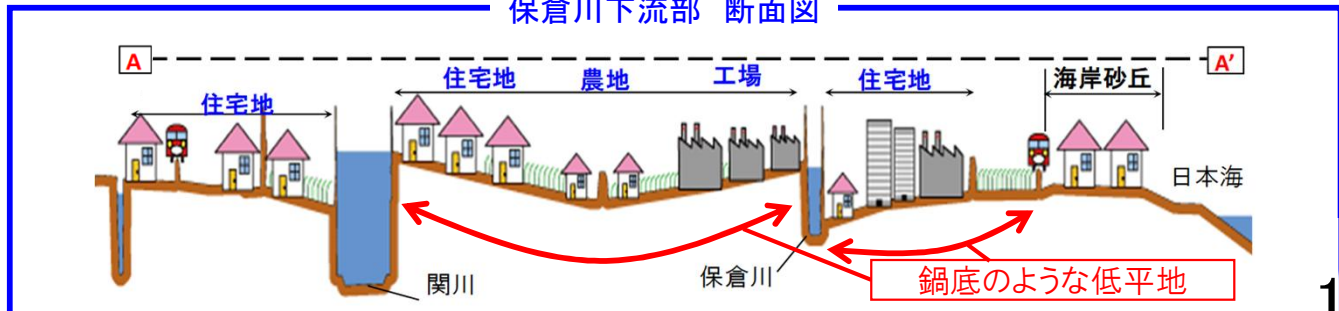
保倉川下流域 地盤高平面図



土地利用(保倉川流域)



保倉川下流部 断面図



# 2. 主な洪水と治水対策

- 関川、保倉川は昭和44年に一級河川に指定され、工事実施基本計画(以下、工実)を策定。昭和44年8月洪水を契機として昭和46年に工実を改定し、改修事業着手。
- 昭和57年9月洪水及び昭和60年7月洪水時、大臣管理区間において浸水被害が発生。昭和57年、昭和60年洪水を契機として昭和62年に工実を改定。
- 平成7年7月洪水では、関川・保倉川上流の県管理区間において甚大な被害が集中して発生。
- 平成19年3月に関川水系河川整備基本方針、平成21年3月に関川水系河川整備計画を策定。
- 令和5年3月に関川水系河川整備基本方針、令和7年3月に関川水系河川整備計画を変更。

## 関川及び保倉川の主な洪水と治水対策

### S44 関川水系が一級河川に指定、工事実施基本計画策定

関川: 1,950m<sup>3</sup>/s(高田地点)、保倉川: 1,280m<sup>3</sup>/s(松本地点)

**S44.8 豪雨及び台風第7号** 高田地点流量 2,170m<sup>3</sup>/s  
松本地点流量 850m<sup>3</sup>/s

### S46.12 関川水系工事実施基本計画改定

関川: 3,700m<sup>3</sup>/s(高田地点)、保倉川: 1,900m<sup>3</sup>/s(松本地点)  
保倉川放水路を位置付け、分派量を全量1,900m<sup>3</sup>/s

**S57.9 台風第18号** 高田地点流量2,460m<sup>3</sup>/s 松本地点流量660m<sup>3</sup>/s  
**S57.12 関川激甚災害対策特別緊急事業(S57~S62)**

**S60.7 梅雨前線** 高田地点流量1,360m<sup>3</sup>/s 松本地点流量600m<sup>3</sup>/s  
**S60.12 保倉川激甚災害対策特別緊急事業(S60~H元)**

### S62.3 関川水系工事実施基本計画改定

関川: 3,700m<sup>3</sup>/s(高田地点)、保倉川: 1,900 m<sup>3</sup>/s(松本地点)  
保倉川放水路分派量を1,900m<sup>3</sup>/sから700m<sup>3</sup>/sへ変更

**H7.7 梅雨前線** 高田地点流量2,580m<sup>3</sup>/s 松本地点流量920 m<sup>3</sup>/s  
**H7.9 保倉川・戸野目川激甚災害対策特別緊急事業**

**H19.3 関川水系河川整備基本方針** 関川: 3,700m<sup>3</sup>/s(高田地点)、  
保倉川: 1,200 m<sup>3</sup>/s(松本地点)、保倉川放水路: 700m<sup>3</sup>/s

**H21.3 関川水系河川整備計画** 関川: 2,600m<sup>3</sup>/s(高田地点)、  
保倉川: 800 m<sup>3</sup>/s(松本地点)、保倉川放水路: 700m<sup>3</sup>/s

**R1.10 台風第19号** 高田地点流量2,150m<sup>3</sup>/s 松本地点流量640m<sup>3</sup>/s

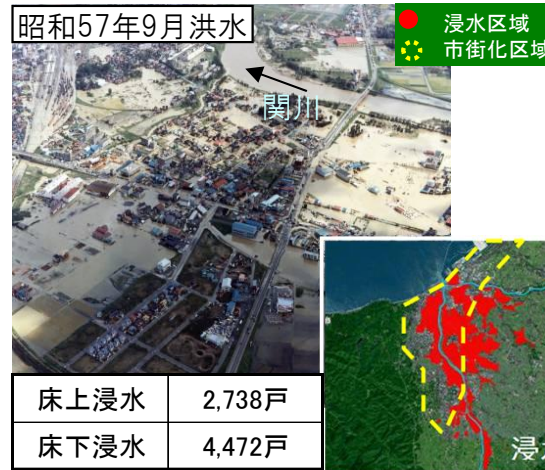
**R5.3 関川水系河川整備基本方針変更** 関川: 4,000m<sup>3</sup>/s(高田地点)、  
保倉川: 1,200m<sup>3</sup>/s (松本地点)、保倉川放水路: 900m<sup>3</sup>/s

**R7.3 関川水系河川整備計画変更** 関川: 3,200m<sup>3</sup>/s(高田地点)、  
保倉川: 800m<sup>3</sup>/s (松本地点)、保倉川放水路: 900m<sup>3</sup>/s

(出典: 水害統計、高田河川国道事務所資料、直江津町史・高田市史※流量は氾濫戻し流量を記載)

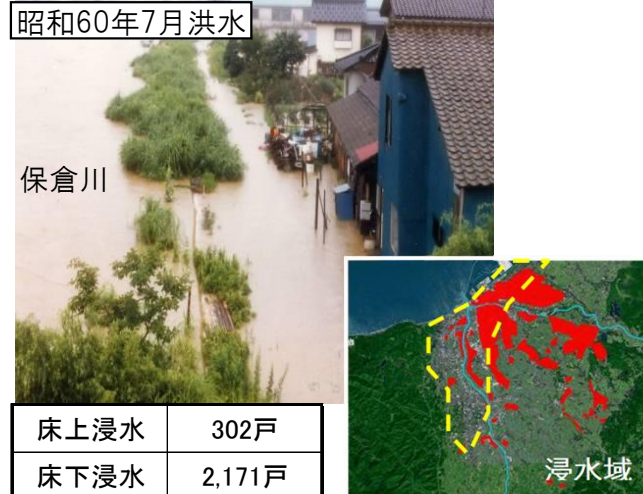
## 主な浸水被害

昭和57年9月洪水



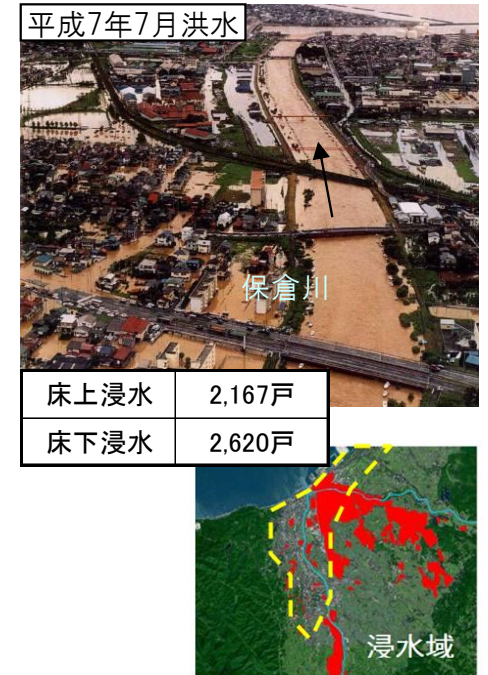
○台風により、関川では本川の溢水氾濫や各支川での破堤によって、大水害が発生した既往最大の洪水

昭和60年7月洪水



○梅雨前線で保倉川越水等により浸水が発生し、河川激甚災害対策特別緊急事業の契機となった洪水

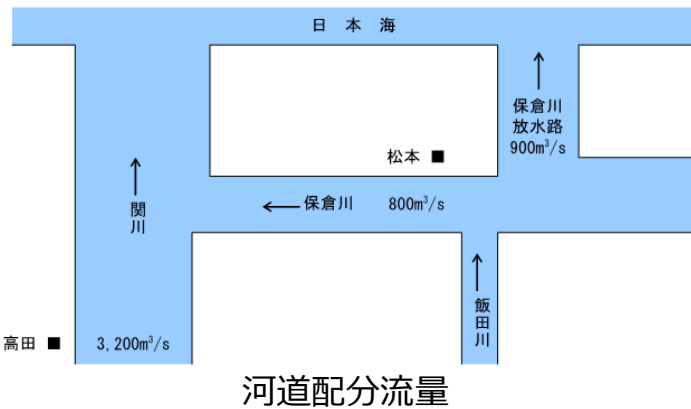
平成7年7月洪水



○梅雨前線で関川上流部で堤防決壊  
○保倉川、保倉川支川重川で越水(溢水)が発生

## 2. 主な洪水と治水対策

保倉川の抜本的な治水対策として、 $900\text{m}^3/\text{s}$ を分派できる放水路を整備し、洪水を直接日本海に流します。



保倉川放水路ルートCIMイメージ図

### 放水路ルートの設定

#### 【地域住民の生活への配慮】

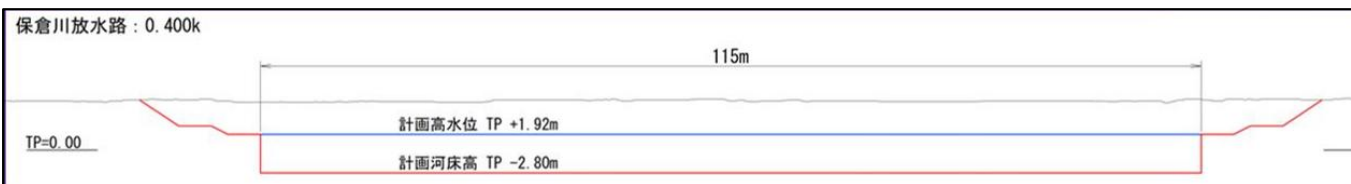
- ・地域分断を最小とし、家屋等の移転、神社仏閣への影響に配慮する。

#### 【確実な治水効果の発現】

- ・保倉川から確実に $900\text{m}^3/\text{s}$ 分派できる分派位置や施設形状とする。
- ・洪水の流れやすさの観点から放水路の線形は可能な限り直線とする。
- ・維持管理しやすい位置とする（土砂の堆積による河口部閉塞を回避する等）。
- ・鍋底地形の低平地部を通過させて、内水氾濫の排除効果を高める。
- ・事業費が高価とならない位置や、施工しやすい位置とする。（橋梁は斜橋にならないように設定）

#### 【重要な施設への影響の最小化】

- ・周辺地域の施設（直江津港LNG 基地上越火力発電所、電力鉄塔、地下洞道、ガスパイプライン、県営南部産業団地、圃場整備事業等）に与える影響が小さいルートとする。



保倉川放水路の主要な地点の計画横断形状（河口付近）